

保育おおさか

大阪府社会福祉協議会・保育部会(大阪府保育協議会)

令和6年8月1日

No.588



発行人 森田 信司 編集人 向井 秋久

大阪市中央区中寺1丁目1-54

TEL.06-6762-9001

FAX.06-6768-2426

<https://www.niji-tumi.net/>



近畿ブロック保育研究集会
(京都府大会)

「すべてのこどもの権利と育ちを保障していく 社会の実現」をテーマに開催

「子ども誰でも通園制度」については現在、テスト段階であることを強調し、今はさまざまな課題を炙り出して本格施行に向けて修正する時期であることや、子育てを社会全体で支える意義、人口減少社会における保育の多機能化の必要性について、ていねいに説明されました。

(事務局)

① 保育おおさか

続いて、主催者の近畿ブロック保育協議会の森田信司会長よりあいさつがありました。「2日間であり学びを深めて、明日からの保育につなげていただきたい。それが子どもたちや保護者の笑顔につながり、地域の活性化につながると期待している。また、10月には、全国保育研究大会を奈良県で開催する。全協単独での開催は最後となるため、近畿ブロックで大いに盛りあげて、有終の美で締めくくりたい」と話されました。

基調講演(行政報告)では、こども家庭庁育成局保育政策課の馬場耕一郎氏が登壇。こども家庭庁の保育政策について報告がありました。また、こども未来戦略・加速化プランの内容にふれ、職員配置基準の改善、保育所等の書類関係の負担軽減等の取り組みについて紹介されました。

開会式は、京都府保育協会の杉本一久会長の地元歓迎のあいさつ・開会宣言からはじまり、ご来賓の全国保育協議会の奥村尚三会長、全国保育士会の北野久美副会長、西脇隆俊京都府知事から大会の盛会を祈念してご祝辞がありました。

や学生など1千人余が参加しました。



近畿ブロック
保育協議会
森田信司会長

7月4日・5日の2日間わたって、令和6年度近畿ブロック保育研究集会(京都府大会)がウエスティン都ホテル京都で開催され、保育関係職員

本研究は、小児慢性特定疾患により出生時から行っていた常時酸素吸入が終了し、3歳から入園した双子の姉の受け入れについてです。

本児は4月に入園し、6月までの間に約1カ月登園しましたが、気管支炎に罹患して入退院が長期化し、常時酸素吸入を再開。4歳のときはコロナ感染予防もあり自宅で過ごしました。5歳の年には、市子育て支援課が本児の就学を見据えて医療的ケア児の訪問事業

を立ち上げ、保育所と看護師による訪問事業を開始。受け入れ準備として看護師による登園前相談、園医との情報共有、主治医によるカンファレンス、指示書の作成、訪問型療育相談、酸素ボンベの取り扱い講習会、他園への勉強会を実施しました。その結果、本児は、11月の運動会の部分参加、フォトフレーム作り、お餅

と保育教諭のペアで幼児教育の良さを取り入れた研究授業・研究保育に取り組む↓④討議会を行い互いの教育について学びを深め、子どもの実態や、園や小学校が掲げる教育目標を踏まえて育みたい力を話しあう、を1サイクルとして活動しています。また、事例集や接続力リキウムも作成します。

同委員会は、①公開授業・公開保育の見学②意見交流会で「10の姿」を踏まえた話しあい③小学校職員

つき、卒園式の計4回、登園することができました。受け入れ時の課題は、緊急時の対応（救命措置、救急搬送）、鑄型の痰つまり

えたそうです。一方、保育参加では、本児が他児のようすを見たり、活動に参加したりすることで「やってもらう」のではなく「自分でやりたい」という思いも強くもったため、職員は「命を守りたいが、経験もさせてあげたい」と葛藤したこと。今後の課題として、医療的ケア児のガイドラインの整備、園の体制作りをあげら

れました。助言者の京都文教短期大学幼児教育学科の張貞京教授は、受け入れに際し関わる大人全ての連携と保護者の園生活への理解、そして保護者と手を携えて制度的な課題を国へ提言することの重要性を述べられました。清和こども園の先生方は、試行錯誤を繰り返して見えてきた園や関係機関における課題は、今後の医療的ケア児の受け入れに生かされていくとおっしゃいました。

（編集委員 T・E）

第5分科会

「10の姿」を踏まえ、就学に向けての円滑な接続を学びの芽を育む現場から

西陶器こども園（堺市）
野田美弥子氏（右）・福井智子氏（左）



の山川宏和教授は、「こどもの接続検討委員会」は、PDCAサイクルではなくOODA（※）に近い。OECDでは非認知能力を社会情動的スキルと呼び、その3要素①目標の達成②他者との協働③情動の制御を、目的意識をもって活動に取り入

が同じ方向を向くことで、安心安全な環境づくりが実現できると発表されました。助言者の京都華頂大学現代生活学部こども生活学科の山川宏和教授は、「こどもの接続検討委員会」は、PDCAサイクルではなくOODA（※）に近い。OECDでは非認知能力を社会情動的スキルと呼び、その3要素①目標の達成②他者との協働③情動の制御を、目的意識をもって活動に取り入

（編集委員 R・T）

皆さんの園では、夏の猛暑日における外遊びはどのようにされていますか？
昨年は、全国的に「史上最も暑い夏」といわれる記録的な暑さでした。園庭に設置していた熱中症指数計の警戒アラートが鳴って園庭に出られない日が続き、「ずっと外に出られないのは子どもたちがかわいそう」という意見が出ました。そこで、警戒アラートが出ていない午前中、少しの時間なら木陰の多いところを散歩したり、曇りの時に園庭に出てもよいことになりました。乳幼児は熱中症にかかりやすいため、当園ではクーラーを効かせて室内で過ごすようにしてしました。たとえ日陰や室内であっても水分を多めにとるようにし、注意して体調管理をしなければいけません。外遊びとなると、保育者、園が熱中症のリスクを一層背負うことになってしまいますから、この時期は気が休まりませんね。

（編集委員 K・M）

みんなが主役！
明るく楽しくなる
保育現場の秘訣！

保育のまど

196

実践！～コーチングコミュニケーション基礎編～ 「聴く・質問」

ほめ育シニアコンサルタント
中園 暁子 氏



私がコーチングに出あって10年以上が経ちます。コーチングは、相手や自分のなかにあるものを「引き出す」ことを大切にします。同時に教育「educate」の語源が「引き出す」と知り（諸説あり）、「引き出す」ことを自分の使命と捉えるまでとなり、今に至ります。今月はコーチングの基本「傾聴・質問・承認」のなかから、「傾聴」と「質問」の基本についてお伝えします。

◆「聴く」は「聞く」より効く

「傾聴」には話し手に大きな効果を与えるといわれています。「話を聴いてもらってスッキリした」と気もちを鎮静化させたり、「安心」や「大切にしてもらった」と相手を信頼する気もちを芽生えさせたりします。また、自己理解が深まり、気づきにもつながります。「聴く」ことはコミュニケーションの大きなポイントのひとつです。自分から話したりや教えたりすることが苦手な方は、「聴く」を味方に見てみてください。

「傾聴」の基本は、手を止めて目を見て相手に集中して聴くことです。相づちやオウム返しなどのテクニクもありますが、「本気で聴くぞ」という気もちに勝るものはないと私は思います。その際、話の内容を全部「受け入れる」必要はなく、「受けとめる」だけでOKです。

アドバイスは「聴いた後」です。悩みや不安でいっぱいだった話し手は、自分の思いを吐き出した後、心に少しスペースができる、とイメージしてみてください。相手にそのスペースができるまで聴き続けることが大切です。人は、話を聞いてくれる人の話を聞く、と聞いたことがあります。聴くは効く、です。

◆「聴く」を邪魔するもの

「聴く」を邪魔するものは何でしょうか？ 時間や目の前の仕事などが頭に浮かぶのではないのでしょうか。また、「先入観」も忘れてはいけません。別の言葉でいうと「思い込み」です。例えば、「嫌いな相手の話を聴く」と想像するだけで、

「嫌々ワールド」全開になりませんか？「なんでこの人の話を聴かなあかんの？」「どうせ○○って言うんでしょ？」と心の中でつぶやきながら、「聴く」は無理ですよね（笑）。

「聴く」ときは役割に徹すること。仕事スイッチをオンにして、好き嫌いはいったん脇に置いて、まっさらの状態で「聴く」に集中してほしいと思います。

◆いい質問は人を動かす

次は「質問」です。コーチングの質問は、「頭のなかを整理するため」や「新たな気づきをうながすため」に行います。「今、一番心配なことは何？」「やりがいを感じるのどんなこと？」などです。

また、「前進につながるかどうか」もポイントです。失敗した人に理由を聞くことも大切ですが、もっと大切にしたいのは、改善点を明確にし、今から取り組むことです。「なんであんなこと言ったの？」「来年後輩ができたらどうするの？」といった過去や未来のマイナス部分を問う質問だけで、相手の前進につながることは簡単ではありません。

「自分のいいところはどこだと思う？」「あなただからできることは何？」「など、プラスの領域での質問を加えることがポイントです。

◆自分のための質問

「質問」は自分のためにも使います。人は、1日に6万回思考をしていると言われています。では、このうちどれぐらいを「質問」に使っているでしょうか。質問なんてしていないという方も多いかもしれません。「できるかな？」「なんで引き受けたんやろ？」「質問のようで質問でないものも多いかもしれません。

そうではなく、質のいい質問を自分のために投げ続けます。例えば、「今日できたことは何？」「成功した理由は？」など、良かった点について整理する質問。「どうしたらこの壁を越えられるか」「今、自分にできることは何か」「これが本当に自分の最高か？」など課題と向き合う質問。時には、「なりたい自分になった自分か

ら、今の自分へのアドバイスは？」「どう生きたいの？」「どうありたいの？」など、人生や生き方について問うのも面白いと思います。

私は寝る前に「やり残したことはないか？」も聞いています。たまに突然思い出してノートを開けます（笑）。

◆何を引き出すか

冒頭に書いた通り、コーチングは「引き出す」を大切にします。そして、コミュニケーションの大前提は「主体は自分」です。「相手から何を引き出すか」「自分から何を引き出すか」も自分次第です。

ひとつでも笑顔になれるものを、そして相手と自分の可能性につながるものが引き出されますように、と願いを込めて私の活動は続きます。

次回は9月号で
実践！～コーチング
コミュニケーション
「質問・承認」をお届け
します。

保育園・認定こども園をたずねて



吹田市

調理を通して
食事を楽しく南山田みどり保育園
みなみやまだ

保育所

南 山田みどり保育園は定員120人の吹田市の認可保育園で、JR「千里丘駅」から徒歩約15分の場所にあります。保育では、体力をつけるためにリズム遊びや運動遊び、散歩などを行っています。

また、保育園の生活を通して自己肯定感を高められるよう、子どもたちは自分でできることを増やしたり、友だちと遊んだりしながら、コミュニケーション能力や思いやりの気持ちを育んでいます。心掛けておられるのは、園児が「おもしろかった」「また遊びたい」と思えるような保育、大人も楽しいと



▲ みどりを身近に感じられる保育園です

感じられる保育です。園児一人ひとりに向き合おうとされている保育者の姿が印象的でした。

今年度は、食育の新しい取り組みとして「みんなでクッキング」を行なったそうです。これ

は、一つの献立に園児全員が関わる取り組みです。0歳児から5歳児までの園児は、年齢にあうさまざまな方法で食

材にふれ、職員の方々が仕上げをされました。みんなで作った給食はどのクラスにも好評で、家でも料理のお手伝いをする子どもが増えたそうです。

「クッキングを通じて、苦手の野菜を食べる意欲をもち食事を楽しんでほしいと思います。また、この場所に保育園があつてよかったと地域の方々に感じていただけたような保育園をめざして、さまざまな取り組みを進めたい」と園長先生はお話しされました。

(編集委員M・N)

泉佐野市

体験を通して
楽しく学ぶ！

あおいこども園

幼保連携型認定こども園

泉 佐野市の平野部のほぼ中央にあり、50年前に開園。平成29年4月1日、名称をあおいこども園に変更されました。

広い園庭には、クラス名と同じサクラやモミジのほか、カエデやイチヨウ、クヌギの

木があります。その変化を感じながら、子どもたちは一年中園庭で遊び、室内では、リズム運動に取り組んでいます。そして、小さな畑では、4・5歳児が中心になって、野菜の植えつけから収穫、調理し、食べる、までを体験します。畑の横には、カキとミカン、ウメの木があり、ウメはジュースに、カキは秋にカキ採り体験をして、家に持ち帰ります。花の種や球根も、子どもたちが植えて、花が咲くようすを保護者の方と一緒に観察して楽しんでいくそうです。

また、園のバスや徒歩による遠足や見学など、体験の機会も多く、年に数回の道徳指導・保健指導・食育指導では、人形劇などの演劇を鑑賞してもらい、子どもたちの考える力を育んでおられます。

園長先生は、今後も全職員の「和」を大切に、園の理念「愛情をもって子どもを尊敬し、一人一人の思いを大切にすること」を支援するために、日々子どもたちに寄り添い、ていねいに関わり続けたいと話されました。

(編集委員Y・S)



▲ 園庭では一年中、園児たちが外遊びを楽しみます

さんぽ

小中一貫校の
開校を楽しみに

私の園の向かいに小学校がありました。過去形なのは現在、校舎が取り壊され、新しく小中一貫校を建設中だからです。公立での小中一貫教育は珍しく、市内では初めてです。小学校2校と中学校1校が合併し、1年生から9年生までの学校になるそうです。

毎日見ている、工事がどんどん進んでいるのがよくわかります。令和7年4月に開校予定です。

私は、この小中一貫校が始まるのをとても楽しみにしています。なぜなら、仮に私の園に0歳児から入園して卒園すると6年間在園となります。卒園後、前にある小中一貫校に入學すると9年間在學になります。そうすると、乳幼児期から思春期のはじまりまでの15年間を間近で見守ることができるからです。なんと素晴らしいことでしょうか。

(私部保育園H・H)